

身近にある税金

静岡県立浜松西高等学校中等部1年 柴田 貴衣

今まで私は税といっても、消費税、所得税、酒税くらいしか身近に知ることができていなかった。しかし、小学校六年生の時、学級文庫の隅に置いてあった「知っておきたいお金のこと」という本を読み、私が今まで知らなかったような税金のことをたくさん知ることができた。法人税や相続税、自動車税や住民税など、国に納める国税と都道府県や市町村に納める地方税を合わせると、約五〇種類の税金があると説明されていた。このたくさんの税金は、生活の中でどれくらい関わっているのかと思い、年に一回の旅行を例にして考えてみた。私は毎年、両親と祖父母の家族みんなで熱海に温泉旅行に行っている。まず、熱海で温泉に入ると、入湯税という一日一人当たり一五〇円の税金がかかり、一泊二日の五人家族での宿泊で七五〇円になる。昼食に和食屋さんで海鮮丼を食べる時には消費税がかかる。店内で食べれば一〇%、テイクアウトだと八%課税される。旅館に泊まるのにも宿泊税という税金がかかり、さらに車での行き来に使うガソリンにもガソリン税がかかる。今まで何気なく旅行に行っていたけれど、実際は多くの税金が支払われているのだと知ることができた。

国税である消費税やガソリン税は国に納められているので、使い道は様々だと思うけれど、地方税である入湯税は身近に感じたため、集められた後、どのように使われているのか調べてみた。旅行先である熱海市の入湯税収入額は全国二位だ。二〇二一年度の入湯税収入は約二億四三〇〇万円で、そのうち観光の振興に四三・八%、環境衛生施設の設備に四四・二%、消防施設等の設備に九・七%、鉱泉源の保護や管理施設の設備に二・三%使われているそうだ。このように、温泉で徴収された税金は、私たちが快適に熱海の旅行を楽しむために、またもう一度温泉に来てもらえるように使われているのだと分かった。

入湯税は集められた税金の使用目的が狭く、限られたものであるのに対し、消費税などの国税はより広く、多くの目的で使われている。主に、医療や福祉、介護などの社会保障や義務教育、道路整備に関わる費用などになっている。また、国家公務員の給与としても使われているそうだ。

集められた税金は、私たちの生活をよりよくするために使われている。税金の使い道は地方自治体によって違うけれど、私たちがより、安全で快適な生活を送れるように考えられ、使用されていることが分かった。普段、安心して気持ちの良い生活を送れるのは税金があるおかげであるということを忘れずに生活していきたいと思う。